



愚心詠并染毫物事

季知詠草
磨恋三年
自筆

特別
へ 2
4867
25



愚心論之冷刺物

慶應三年

正月一日

新しき年をいへば喜ぶ事なりとも母のたまはれとておもしろき事あり
とてきてもひらけぬ花のうらみこそ老成しうけぬ事ありとて
三、作亭吉園 註に未だしとて母子都府橋乃古跡をいひまゝとて
礎を築かむしりておきてはたはたさうらみありけりとの事

二月十日そのとやて

うらみありとていへばおもしろき事なりとも母のたまはれとておもしろき事あり
とてきてもひらけぬ花のうらみこそ老成しうけぬ事ありとて
二月十日利書堂の許より文をていへばおもしろき事なりとも母のたまはれとておもしろき事あり
はたはたさうらみありけりとの事又のりさやうに百金とて
おもしろき事なりとも母のたまはれとておもしろき事あり
同月十九日の夜に火災ありていへばおもしろき事なりとも母のたまはれとておもしろき事あり
此の事ありとていへばおもしろき事なりとも母のたまはれとておもしろき事あり



千代...

三月十日人... 陶山一貫...

家... 桃...

心... 梅加...

三月廿八日...

甲一村... 静...

一七...

梅...

梅...

梅...

梅...

四月...

Handwritten text on a rectangular slip of paper, oriented vertically. The text is written in cursive Japanese calligraphy (sōsho). The characters are dense and difficult to decipher precisely, but appear to be a list or a set of instructions. There are several vertical lines of text, with some characters written in a larger, bolder hand. The paper is aged and shows some staining and wear.



雁

二月九日藤田主水 二月五日藤田主水 八日宮原主水 十日林文左衛門
九七日宮原國使者於天一節

柳

同上 二月十日宮原主水 二月十日宮原主水 十日宮原主水
同日林文左衛門

朝鶯

同上

同上 二月十日宮原主水 二月十日宮原主水 十日宮原主水
同日林文左衛門

梅

同上

同上 二月十日宮原主水 二月十日宮原主水 十日宮原主水
同日林文左衛門

春草

同上 二月五日藤田主水 二月五日藤田主水

同上 二月十日宮原主水 二月十日宮原主水 十日宮原主水
同日林文左衛門

題不書之

二月三日天一節 七日青内暢 二月三日三浦主水 三月成善院
十日水野文 十日水野文 十日水野文 十日水野文

初道好之 藤原季知 藤原季知

卷物

二月二日二日兩日也 高杉晋作 高杉晋作

慶應元年五月於筑前國旅館人之相共奈贈三品羽林軍部之

時敬述心緒之詞長歌

季知

天堅乃天

天堅乃天 天堅乃天 天堅乃天 天堅乃天

登天到山 疏拜 菅神 當暗 舊回 趾陳 志鄙 歌

藤原季知

今日許尔身波下 奈賀良具加美能 跡平同古曾畏香理氣禮

有故赴長門國之坂月清明之夜不垢感情聊述思之

天原奈賀年苗月波隈毛那斯阿志耶志乃我古呂加那

季知

二月三日成三善院院 銘寫次郎不望二

醉 古 梅

平知 石方斗

題 不書日之

二月五日三善院院

早々所乃心々々 能縁由道と答々つらもを此後つらも

月五日三善院院 銘寫次郎不望一 中二徳をス光

初春詠子詞としめよ子乃日乃心乃好々

聞之上乃春乃心々々 能縁由道と答々つらもを此後つらも

白心こそ心々々 能縁由道と答々つらもを此後つらも

春 女草屋里

かひそらりけしきなり里あやゆい 海に花をいりり 雪のこり

高り此あさし山よあつちて

名能いして心ぬあつちり 能縁由道と答々つらもを此後つらも

春

長き心々々 能縁由道と答々つらもを此後つらも

松岡郭々

まきこころいしあつち 能縁由道と答々つらもを此後つらも

若林あつち郭々 能縁由道と答々つらもを此後つらも

わの心乃老いし心ぬあつち 能縁由道と答々つらもを此後つらも

石原納涼

遠故乃心能心乃心 能縁由道と答々つらもを此後つらも

秋夕

雪の心々々 能縁由道と答々つらもを此後つらも

秋月乃あるに花おもはあはし

是を走るはしきももみ秋りしはふらふらとあはれいふは

秋天象

静けの好むる玉のこもあはれはふらふらとあはれいふは

雪中鐘

雪降の夕影にみゆり記すてちよもあはれいふは

十月とるを二松の許ふあはれいふは

あはれいふは

胡もこもあはれいふは

名残松

名残松のあはれいふは

山家言

あはれいふは

あはれ法師のここの猫を童子はあはれいふは

あはれ法師のここの猫を童子はあはれいふは

公乞少将小任し下とれし時

位はあはれいふは

社以祝言

あはれ法師のここの猫を童子はあはれいふは

あはれ法師のここの猫を童子はあはれいふは

あはれ法師のここの猫を童子はあはれいふは

あはれ法師のここの猫を童子はあはれいふは

あはれ法師のここの猫を童子はあはれいふは

あはれ法師のここの猫を童子はあはれいふは

あはれ法師のここの猫を童子はあはれいふは

二月六日杉中十七日去寺 廿七日山宮岩園後者於 兼天二郎
形子常好も家 七八分言筒色也 三月五日司馬 同日成善院 十月後 九月廿五日
梅林鶯 水田十景之内短尺之徳之 兼善院
うらひひる 二月七日

梅林鶯 水田十景之内短尺之徳之 兼善院
うらひひる 二月七日

繪讃 柳あり 燕 二月七日

長月柳乃 糸子いあまぬ 善風を つまねて 下流に 子
楠正成 正行の 遺誠の ところ 同上

備後三郎 橋本子物 古つころ 同上

思ふ中 なる 柳を 二月十日 宮村左竹次 十七日 去寺 廿八日 立小 下流
同日 兼善院 三月八日 主水 十三日 東之也

於中 あり 老の こと 青柳 糸子の 心 おとけい ちとせ ちとせ

奈木 云し 時詞 兵 乃 宮村 平川 二月十日 雨日 三月五日 後 下流
三月八日 村建 同日 建 鎌尾 一屋 田舎 兼善院
三月十日 大 徳を 不 知シ 三月十日 大 一節

無歌 於の 代の 若も うく やと 天北原 うち 兼善院 兼善院 兼善院

無歌 於の 代の 若も うく やと 天北原 うち 兼善院 兼善院 兼善院

無歌 於の 代の 若も うく やと 天北原 うち 兼善院 兼善院 兼善院

無歌 於の 代の 若も うく やと 天北原 うち 兼善院 兼善院 兼善院

起る 心 あり 事 して ころ 小 兼善院 乃 あり 兼善院 兼善院 兼善院

無款

三月十日代書 實の三入兵服屋に

白紙に書きしともいふ青柳の心田にといふふくへ

月

三月十日直記 八月十日主水 執事 環堂 寺の同日實教坊

高代の記をいけや久このりとは記後をくもつらも

無款

同上 四日鏡五助 十五日執行坊 三ヶ東、八ヶ 十八日文太 十九日

考をそつらひ終るともいふしむれあこと心証く様

無款

同上

高代の記をいけや久このりとは記後をくもつらも

無款

三月十日鏡五助 十三日東之世 十五日成実堂 十六日 十七日秋月 渡 表寺 四日言書

迷しぬ万支那のうめは

三月十日水野 文の堂 由 七ヶの井 堂 寺 四月七日戸田平 五ヶ

わが井 あり

高代の記をいけや久このりとは記後をくもつらも

志乃之

三月十日東之世

高代の記をいけや久このりとは記後をくもつらも

名記してはぬあつてのうめは

鏡堂あり

同上 十八日 鏡堂 寺

月をい

高代の記をいけや久このりとは記後をくもつらも

三月十日色内 敬形 執行坊 寺の 利堂、おぬふ

僧正通取

在屋 康平 年 終末

高代の記をいけや久このりとは記後をくもつらも

月をい

文屋 康平

吹の月

高代の記をいけや久このりとは記後をくもつらも

母の 志を

月をい

志を

吹の月

是より山にあり
我の海
言機法師

於れつぬれ
小野十助
人の子は此の世

天伴里三
思ふ
はつた
人の子は此の世

天判山

三月十五日 訖り 九月九日 盛岡

そあつた身は下りて
三月十日 諫尾 薩大由

無歌

無歌

無歌

無歌

同上 九月十日 戦功
同上 九月十日 戦功
同上 九月十日 戦功
同上 九月十日 戦功

是より山にあり
三月十日 吾音 八月十日 小川伊集

秋丹此あり
きい歌の歌

無歌

無歌

無歌

短冊 二枚

三月十八日 田村泊 小野介
三月十九日 利根堂
三月十九日 利根堂
三月十九日 利根堂

三月廿六日 慶喜の御書

無狀 起て先を... あつて... 御書

梅の御書

三月廿二日 準一郎 大守 豊喜 考吉

三月廿一日 戦功者八人 五月十日 主小 考吉

無狀 三月廿一日 主小 考吉

三月廿一日 豊喜 鶴梅

無狀 三月廿一日 豊喜 鶴梅

無狀 三月廿一日 豊喜 鶴梅

無狀 三月廿一日 豊喜 鶴梅

無狀 三月廿一日 豊喜 鶴梅

無狀 三月廿一日 豊喜 鶴梅

同上

同上

同上

同上

同上

同上

梅の御書

同上

同上

同上

同上

同上

同上

同上

同上

同上

無紙

五月七日吉野 十日山内吉野

夕の光を今昔の風流にほのぼのの春の光にほのぼの

郭子

五月十日平川 同日 執行坊 同代

何事かたしとて 郭子もさういふし外にさういふに

無紙

同上

郭子もさういふし外にさういふに

無紙

同上 同日 執行坊 同代

郭子もさういふし外にさういふに

無紙

五月十日山内吉野

郭子もさういふし外にさういふに

無紙

五月十日山内吉野

郭子もさういふし外にさういふに

無紙

五月十日山内吉野

郭子もさういふし外にさういふに

牛画譜

五月十七日利永

五月十七日利永

郭子もさういふし外にさういふに

迷情

五月十七日利永

郭子

五月十七日利永

郭子もさういふし外にさういふに

郭子

五月十七日利永

郭子もさういふし外にさういふに

郭子

五月十七日利永

郭子もさういふし外にさういふに

郭子

同上

郭子もさういふし外にさういふに

郭子

此乃走一程此宗てあふあり

五月十日 庚堂 雲ノ舌不望ニ

あつたのいと香くはし 記書 故

梅といは菊といは少母あはれに那の香くはし 記書 故

管の香くはし

志

七月九日未村寺に進回七日吉斗 寺を去 八月十日主水寺向日屋 九月十日干代寺 今 珠の

志 七月十日 未村寺に進回七日吉斗 寺を去 八月十日 主水寺向日屋 九月十日 干代寺 今 珠の

梅ノ譜 寺を去 七月十日 未村寺に進回七日吉斗 寺を去 八月十日 主水寺向日屋 九月十日 干代寺 今 珠の

梅ノ譜 寺を去 七月十日 未村寺に進回七日吉斗 寺を去 八月十日 主水寺向日屋 九月十日 干代寺 今 珠の

梅ノ譜 寺を去 七月十日 未村寺に進回七日吉斗 寺を去 八月十日 主水寺向日屋 九月十日 干代寺 今 珠の

梅ノ譜 寺を去 七月十日 未村寺に進回七日吉斗 寺を去 八月十日 主水寺向日屋 九月十日 干代寺 今 珠の

無 七月十日 未村寺に進回七日吉斗 寺を去 八月十日 主水寺向日屋 九月十日 干代寺 今 珠の

無 七月十日 未村寺に進回七日吉斗 寺を去 八月十日 主水寺向日屋 九月十日 干代寺 今 珠の

同 同上 未村寺に進回七日吉斗 寺を去 八月十日 主水寺向日屋 九月十日 干代寺 今 珠の

同 同上 未村寺に進回七日吉斗 寺を去 八月十日 主水寺向日屋 九月十日 干代寺 今 珠の

少母あはれに那の香くはし 記書 故

同上 未村寺に進回七日吉斗 寺を去 八月十日 主水寺向日屋 九月十日 干代寺 今 珠の

心と道 記書 故

心と道 記書 故

一 心 と 道	心 と 道
------------------	-------------



心と道



心と道

二幅對之

記

此乃走一程... 五月十日... 堂

梅といふ菊といふ少母... 記す

管の... 七

七月九日... 八月十日... 九月十日...

志... 七月十日...

梅... 七月十日...

八月十日... 九月十日...

九月十日... 十月十日...

無... 八月十日...

同... 八月十日...

同... 八月十日...

八月十日... 九月十日...

同... 八月十日...

同... 八月十日...

同... 八月十日...

同... 八月十日...

同... 八月十日...

同... 八月十日...

同... 八月十日...

同... 八月十日...

同... 八月十日...

同... 八月十日...

海老ノ身 服紗梅仙認海老 八月九日小西直記不詳

乞とと授とし伝もいんりふとと子老の海老の身

七歌

八月廿九日代國同日田中雄

玉母より名姓直語をゆつ約のふととあふれふこり案

